THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

驛遞局認可

明治十九年九月二十五日　定價金四錢

女學雜誌

第三十七號

每月三回發行

績文舍

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

目錄

●〔女學叢誌〕競爭の戰場に出陣すべし●〔中外新報〕數件●〔學藝一斑〕植物學一斑●〔對譯〕英和羅馬字の對譯●〔列女傳〕尼松月の傳●〔雜記〕夫婦大學○婦人の選擧權○西洋禮式一斑●〔淅作物語〕巢守の妻第七回〔春のや主人稿〕●〔家政要報〕家事會計の心得○相場●〔御伽草〕十八並外一件○數學答式●〔寄書〕數件

◎女學叢誌

競爭の戰場に出陣すべし

そべて生類ハ生存競爭とんひて一日一時間も相互ひの競爭を休むと能はざるものにして中よも人間同士の競爭はど劇しく恐ろしきものハあらざるべし抑も競爭とハ人々相互ひよ我れ劣らじ已れこそ他に優らめと思ふとよて優りたるものハ他に敬まはれ劣りたるものハ他の侮りを受るの習ひなれば人々相互ひに我れ敬まはれ他の侮りを受けまじとするを人類の競爭とハいふなり善き衣服を着たるものハ惡しき衣服を着たるものに敬まはれ身貴きものハ身賤しきものに重んせらるゝの道理なるがゆゑに譬ひ少々着ごゝろの惡しき衣服たりとも他人これを良き衣服なりとせば一身の不便をも忍びて之に從はざるを得ず譬ひ貴きにハあらざるも他人これを貴しとせば枉て之に從はざるを得ず若し之に從はざる時は位置を轉倒して自ら侮り輕んせらるゝの地位に立ざるを得ず社會の必要ハ一己人の必要より重くして一己人ハ社會の必要に從はざるを得ずされば世の中ハ何ごとも他人の思はく如何を先きにし一身の實利ハ之を後よするものにて優劣を競爭そるの忙がしきが爲に他人の思はくさへ善ければ内實少々の不便ハ顧ざるに遑あらず即ち外見を飾るがために忙がしくしていまだ實用を計るの暇なきなり西洋の學者既にこの事をいひて或るアフリカの土人ハ天氣よき時に毛皮の服を着たりしが雨の降り來りたるに逢ひて俄かに之を脫ぎ赤裸躰となりたるハ愚かしき笑ひ話なりといへども衣服ハ元外見を飾るが爲先に出來しよて必要ハ之に次ぐものたる證據なりといへり現に我々の衣服とてもたゞに寒さを凌ぐが爲のみならんにハいろ濃く染めたる太織木綿こそ丈夫なるべきを糸筋細く揃ひたる絹布を選びて縞柄とか色合とかいひ婦人の髷ハ如何なる形ちにてもよかるべきを嶋田とか丸髷一葉返しといひ櫛ハ利休にあらざれば岡本とか妻形とか種々の數奇好みあるハ皆たゞ外見を飾るが爲なるのみ扨てまた無形のことに就ていふもまた然り彼の漢學をなすもの刻苦勉強して六かしき文字を多く知らんとそるも直ち

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

にこれを以て滊車を走らし鐵船を造るの目的にはあらざるべし多く字を知れば世の人これを學者といひ知らざればこれを無學といふがゆゑなるのみ英米にありても男子は多くラテングリーキの死語を學び婦人は多く伊太利獨逸の語學をなすものあり是またラテン、グリーキの古語を如何によく諳んじたればとて世界中の人と談話をなし得らるゝといふ實用もなかるべく獨逸語伊太利語に由らざれば實學の出來ずといふ（我邦のごとく）必要もなかるべしただラテン、グリーキ語を知るものは學者といはれ獨逸伊太利の詩を歌ふ婦人は貴婦人といはるゝが爲めにして外聞を装ふに外ならずされば外見を飾り外聞を装ふは他に敬ひ重ぜられんことを勉るにて人類の競爭とは取りも直さず他前をつくらふに忙がはしきことなりといふべし然るに我が邦婦人の有樣を見るに「勝れて淸らを盡し人の目に立つほどなるはわろし」（女大學）といひて外見をも飾らしめざれば況て外聞を装ふなどの名譽心も薄かるべく「惣じて女の道は人に順ふにあり」（女大學）とてたゞ何ごとも内輪に控えめならんことを旨とし他人に優らんことを競はずして却て他人より劣らんことを勉めたるものといふべきなり固より實利實用を勉めずして虚飾にのみ流るゝは善きことゝいふにはあらず世の進むに隨ひ實利を以て競ふことゝなり行くべくまた柔和溫順なるは婦人の美德にして惡きことにはあらざれどもさりとて天禀活潑なる競爭心を壓へて働らかしめざるは世の進化を妨ぐるの道理にて殊に今の時にありては有爲活潑の氣性を養ふこともまた甚だ必要と思ふなりされば今より婦人同士の競爭は固よりの事なれども一層その區域を廣めて男子との競爭を始め何ごとにも男子に優らんことを勉むべし假ひ男子に優ること能はざるまでも責てはこれに劣らざらんことを勉めずんばあらざるなりされば世の中は競爭の戰場にして修羅の衢にまどはず速かに出陣して男子の本陣に馳せ加はり更らに競爭の區域を廣め男子と力らを合して文明社會の人々と一層劇しき競爭をなすべき心がけこそ肝要なれ男子もまた速に婦人の出陣を促がし立てゝこれを後詰の勢と頼み益々勇進して世の競爭に從はずんばあらざるなり世の競爭は止む時なし須臾も油斷なるべからず記者は既に競爭の戰場に出陣して女學叢誌を盾となし硯の水のあらん限り筆の命毛續かん限り今を先度と戰ひ將に酣なりいでや江湖の貴女淑婦頭らは束髮となりてボネットを頂き身に洋服を纏ひて足には靴を履み鳴しなどて加勢には出で賜はぬぞ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎中外新報

○勳章　二品彰仁親王(小松の宮)の妃頼子の方よりハワイ國皇帝陛下より贈與の「ナイト、グランド、クロース、オフ、カピチラニ」勳章を佩用するとを允許すと本年本月二十日の官報に見ゆ

○婦人の財産　嘗て本誌上に記載したることもありしが歐米にては婦人とても財産を所有するもの甚だ多し今歐米の諸新聞中より二三を集め出さんまカセリン公爵夫人ハ本年五月に死去せられたるよ由りろの遺言書に由り夫人の財産をとり調べたるに動産のみにても八万七千ポンド(即ち我が國の凡ろ四十三万五千圓なり)の餘なりしといひまた本年四月に死去せられたる侯爵シャフテスブリー夫人の遺産ハ動産にて十三万圓なりしとわり讀者の中にハ右ハ貴族なるが故に多かりと思ひ賜ふ方もあるべければ平民のを出すべし即ちこの頃死去したるコール婦人の遺産ハ三万ポンド凡ろ我が十五万圓にしてフレデリッキ婦人とへるハ本年三月に死したるが四十万圓の遺財なりしとありこの外に六七万圓の財産を遺せしものハ甚だ多けれども餘ハ略して載せざるべし

○英國の團十郎と久米八　ともいふべき英國にて當時名うての俳優アーヴヰンとテリー嬢とハ今度米國へ渡航するにつき去る八月六日の夜倫敦なるライシユーム座に於て暇乞の興行をなしアーヴヰンハ例の雄辨を振ひて演説なし終りに公衆の贔負厚きを謝し且つ歸國の〻ち興行すべき脚色の大略を述べたりしに非常の喝采を得またスターリン婦人ハ此夜限りいよ／＼女優を廢業せるよしを自ら演述し直ちに久米八ともいふべきテリー嬢と共に秘術を盡して一世一代の技を演し一時見物者の心魂を空虛とならしめたりし由

○賞與　駒込避病院の看護婦總取締増田サワハ職務勉勵し患者に對して周到懇切に殊に多數の看護婦を監督して取締向ゆき届きたる廉まて去る廿二日東京府廳より慰勞として金七圓五十錢を賞與せられたりと去る廿三日の東京日々新聞に見えたりし

○佛國ゟの來書(八月七日發)　當時パリ府に在留の某氏ゟ舍友の許へ送られたる手紙の中に(前略)君の御懇親の方が編集に從事せらるゝとて女學雜誌數部御送致下されありがたく一見致候處なか／＼に有用の雜誌と見受け申候殊に印刷鮮かにして體裁も至極よろしく挿畫の彫刻も甚だ美麗なり追々盛

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

大に赴くべしと存候當府はこの節は暑中休暇にて市中の人は東西南北の近在へ出ゆき平生よりは稍々靜かなる有樣に有之候得ども諸學校の生徒は漸く試驗を畢り賞與を授かりしものは喜び勇み不首尾のものは失望の餘り亂暴を働きたるものもあり殊に騷がしかりしは官立學校と私立學校との競爭試驗なりし五日前美術學校に於ても胡弓、ピアノ、繪畫等の競爭試驗を行はれ優等者中には婦人多かりしと承り候當府は歐米諸國より美術生徒の來學するもの甚だ多きがゆゑに美術學校の種類もまた多く有之何れも男女の生徒充滿せりと申候既に二三週間前のことなりき當時內閣員ゴブレーの夫人がセーン町なる公立美術學校に至りたるに恰も授業中なりしを同夫人は見て校長モンテヂル婦人に向ひ斯く生徒の多くして校舍狹隘にては健康上にもよろしからず隨て學術進步上に關係することなれば早速增築の計畫ありたし自分も及ぶ丈け盡力すべしと云はれたる由に承り申候以上は雜誌の埋草にもと書添申上候云々とありさり時々通信すべしと申越されたる趣きなれば後便にまた〳〵信書を揭載することあらん

○女子職業學校　前號へも記載したる女子職業學校は去る十六日に校長服部一三氏を始め教員發起者一同出席して開校式を行はれたるよし時事新報に見えたり

○舞踏場開きの宴會　伊國公使マルチノー君は兼て種々意匠を凝らし同公使館內に舞踏臺を新築せられたりしが全く落成したるに付去る廿日とかその祝宴を開きそのころ府下に御滯在中なりしルイナポレオン親王を始めまゐらせ我が皇族大臣および各國公使を招待して饗應せられたるよし

○暹羅國の風俗　暹羅人は印度各地の土人と同じく女は十二歲位にて結婚するを通例なりとぞ婚禮には宗敎上の式を行ふなどのことは更になくただ證人の面前にて新夫婦面會せるを以て婚禮の式となせり尤も婚姻の時には音樂師と舞踏者とを雇ひ盛んに舞踏をなすの風習なり花嫁は美なる衣服を着飾り指輪および珠玉を飾るなどは平生よりは餘ほど多く婚姻の宴會は婿の兩親の家に於て開き新夫婦はその後數日間この兩親とともに住居するの習ひなり平民は一夫一婦なりといへども國王および貴族は正妻を一人と定め他に數人の妾を持てり妾といへども常に正妻の奴隸なり家督相續は正妻の子に限ることにて妾腹の子は嫡子の奴隸となりまた嫡子は妾および其子を放逐し或は奴隸に賣るの權利あり暹羅人の高貴なる人に逢ひ尊敬する狀は恰も支那人のごとく手を拱きて數度拜し

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

て禮を行へり國王の侍臣および貴族が國王に謁するときハ平伏し平民ハ膝を折りて坐し頭らを前に傾け兩手を拱みて頭の上に揚げて拜禮せり千八百五十七年の十月暹羅より二人の使節倫敦に來り女皇に謁見し立派なる物品を獻じたりその國の風習なりとてこの品をば匍匐して差出せりまた千八百八十年に英國の女皇ハ暹羅國王より在倫敦同國の公使を經て白象の勳章を受けさせ給へり(英國婦人重寶雜誌)

○外山氏の藝妓論　同氏がこの頃著はされたるうちに「遊女などハ可成賤しむべし獨り遊女のみならず藝妓といへども一たび足を洗ひ立派に婚姻して士大夫の北の方となりたる以上ハ格別鑑札を所持して商賣をなし居るうちハ娼妓同樣最も賤しむべきものなり公然世人の中に出でゝ坐席を共にすべきものにハあらざるなり然るに近比最も驚きたるは鹿鳴館に於て音樂會の催しありたる時藝妓輩數名が大威張の御客樣にて內外紳士幷に宣敎師などと同間同席にてありしとこれなり」とあり余輩ハ甚だ此說を贊成するものなり然るをメール記者が駁論して熱心の度に過ぎ空想を抱かるゝとその度に越えなば一の笑ひ草とならんのみといへるこそ余輩ハ一笑に附し去らんと欲するなれ藝妓の事に付てハ他日論ずべし

◎學藝一斑

○植物學一斑(第三十五の續き)

植物の形容の異るハ數限りもなきことにて樹木、灌木、草、蕨の類ハ普通に人の知る種類なれどもこれたゞ植物界の一小部分に過ぎずして大なる樹木の皮、濕氣ある屋壁、草葺の屋根、籠りたる森林の下蔭などに生ずる苔の類のみにても其數幾百種といふにいたり時としてハ大洋の水面にも極めて微細なる植物簇りて一種の水色を現はすこともありまた海濱ハ恰も原野のごとく種々に色も違ひ形容も異る海草を生じ粘埿の中にも濕氣ある屋壁にも流れ川の底なる岩石の上にも石のごとく堅き山上の土にも生じ黴のごときハ食物書物並細工物等に生じ或ハ生物にも生じこれを枯し又ハ薬物に生じてこれを害しまた動物の諸機關を侵して生ずることなどあり

植物生活の上に必要なるものハ空氣、氷點以上の熱度、光線、水氣、無機土質等なりこれらの物質を要せざるものハ甚だ稀れにして雪解のとき積雪の上に生じ淡赤き色をなせる極めて微細なるレッドスノー、プラントといふ植物あるひハ菌類ハ全く暗きところにても生ずることを得るといへどもこれらを除

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

くの外ハ穴に栖む盲目動物(魚類或ひハ虫のごとき)深き太洋の底に栖む動物またハ動物中に寄生する動物のごとく生活上光線を要せざる植物ハあらざるなり

さてまた植物の分葉といふハ生活中その生命またハ健康を保つために働らくものあり或ひハ同種類の再生を計る爲めに働らくものありて何れもみな植物の生活上に必要なり斯く部分に由りその働らき異りて各部別々の用をなすものをオルガン即ち「機關」といふ

譬へば有花植物にありて重なるものハ(イ)「根」を以て土地に固着し水氣を吸ひ(ロ)「莖」ハ葉、花、菓實などを保ち(ハ)「葉」ハ通例薄く平たきものにしてその一片に於て光線を受くるの装置となりまた(ニ)數機關の集まり成れるものを「花」といひ(ホ)花の一部ハ(實)を有する「菓」となる等をいふ

これらの諸機關がそれ〳〵一定の働きをなすをその「作用」といひ總ての植物に最も必要なる作用ハ榮養と再生の二つにして總て細小なる植物にハ運動の機關なし

有花植物ハ根と葉とに由り養を受けて動物のごとく食物を受るための胃もなくまたこれを全體に分派するための心臓も血管もなく養ひとならざるものを排泄する機關もなし(未完)

MAXIMS & PROVERBS.
泰西の箴諺

(甲) Truth is the best buckler.
㈠ ㈣ ㈡ ㈢

〔意譯〕正理ハ最良の盾なり

(乙) Venture a small fish to catch a great one.
㈦ ㈤ ㈥ ㈣ ㈢ ㈠ ㈡

〔意譯〕大魚を得んとせば先づ小魚より初めよ

(丙) When the cat is away, the mice play.
㈣ ㈠ ㈢ ㈡ ㈤ ㈥

〔意譯〕猫が居らねば鼠が騒ぐ

◎ 對譯

○泰西箴諺の直譯

(甲)㈠正理(ハ)㈡最も善き㈢盾(で)㈣ある

(乙)㈠大なる㈡もの(を)㈢捕ふ㈣べく㈤小なる㈥魚(を)㈦試(よ)

(丙)㈠猫(が)㈡他方(に)㈢ある㈣時㈤鼠(が)㈥遊ぶ

KWAIWA (HANASI).

A. Shall we take a walk? A. Sukosi o aruki nasaimasen ka?

B. Yes, let us walk. B. Hai o tomo wo itasimashō.

A. Where shall we go? A. Dochira ye mairi-mashō ka?

B. On the high road. B. Tōrisuzi ye mairi-mashō.

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

◎列女傳

○尼松月の傳　（前號の續き）

尼はやをら膝おし進めつゝぬしの言るゝ處ひとたび道理あるに似たれど反復考ふれば聊か詫び難く侍るなり彼の櫟野の文太夫ぬしは老たる母の洪水におし流されて行方なくなれるを尋ぬるに如何ばかり家富み榮えたりとて死體のありか知らせたる人にその報いをそると危き生命助けて養ひ置きて連歸らせたるとその報いの重さ輕さは何れか優れると思ひ賜ふぞ喜悦の深く厚からむかたに報いの重かるべきは論なきなるべし初め長櫃に入れられて漂ひ來しを引あげしは寔にぬしの力ならでは叶はずされど色よき衣か要ある調度かと思ひしに違ひて嫗なりしかばぬしはその儘に流し捨むとせふれしならずやさらば生命助けたるがために贈られし重き報酬の金をさながら得むと言るゝは道理たがひぬべし然はあれど引あげし勞力と衣調度にあらで嫗なりしことを見定しとはぬしのわざに紛れなし斯くいへばぬしも此報の何程かを得らるべき筋といはゞ言れぬべきやうなれど文太夫ぬしはこの尼にのみ報いをしてぬしにとは言ざりしされば尼は望みなき金を受納めて今もこゝに持れど這を參らせむは報せし人の意に違ひぬべし斯ればこの金をば嫗を引あげしところに棄つべければ潜き入りて取賜へかしさらば尼の參らするにもあらずまた文太夫ぬしより報いせしとにもあらずぬしの力によりて拾ひ得たるものなれば煩はしきこともなくうしろ安からずやと言へば傳作はうち頷きつゝ尼君の說敎はよく了解たり悅ばし辱けなしと禮いふべき面倒もなくて是にますとやわらむこの間ころ洪水にて渦卷さまの恐ろしげにも見えたれ股にも及ばぬ淺瀨になれるに何のむづかしきとかあるべきいざ疾々と促すにさらばとて尼は衣筺の底より袋に納めたるまゝ取出して先にたてば傳作はそのしりにつきてありし小川の岸にいたりぬおのれ多年川がりになれたれば淺さ深さはよく知りぬことに水泳ぐことも普通の人よりは優れりとこそ云へ劣れりとしも思はねば事の序に泳ぎて見せ申すべしと河內木綿の筋織の浴衣を脫ぐより早く細帶もて引くゝりつゝ傍の柳のさえだようち懸れば尼は懷中より彼袋とり出して川の中心に投げ入れつ傳作はそのゆくへを見定めて水音高く飛び入りしがとみには姿も見せぬを見果むともせで尼は塵うち拂ひつゝ徐々庵の方へ歸りぬその次の日村人ひとり二人尼の庵へ來て物語るやう豫て名のみ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は聞き知らせ賜ひなむ傳作といふ男の日ごろ心ざま佞けて悪しきとのみたくめるありけり昨日も酒にいたく酔ひて此方ざまに來るを見つと申す者の侍りしが何としてか溺れ死けむこの龍川の古杭にかゝりてありしを發見しものありて村長どのにも告げ檢視も既うすみて引渡されぬ渠はこの村の人といふにもあらず十年ばかりの前方より來り住るものにて常々放逐ひてむなど言ふ人もある憎まれものなれば斯る非業の終りを遂ぐるは固より遁るまじき理りにこそあらめ今回僅かなる入費はあれど斯くなれるは却りて行末うしろやすきとと誰もく悦べるものから埋葬をたのむべき寺も無ければこの御庵のうしろの山に埋みて尊きおむ誦經

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

をひとたびだに賜はらば前世の惡業もとみに消えて後世の安樂も疑ひあらじかしこの事爭で許させ賜ひなむやと交る〳〵にいふをうち聞く尼は涙さし汲みけ〻請はる〻ども此方より望みてもそべく思ふよしありその故は洪水のとき云々の事あり夫より後は斯々にて昨日傳作の來りていひしは例の道理たがへる語なりしがひと度懲ふして後心をだに改めなばその折報いの金は悉皆とふせむとて袋には態と石をこめてうち込みつるにそを取らむと潜き入りて溺れたるは貪慾の心ふかきを神も佛も憎ませ賜ひて罰したまへるものならむとは言へいと果敢なく悲しきとにもなれるかな此方にては昨宵にも今朝にもかの石をこめたる袋をもちて欺かれたる口惜さをくり返しいひに來べしとのみ待つけつるにその人は疾く此世の人ならずと聞くこそ悲しけれされば後のわざの入費はいふも更なり身に要なき金を霎時がほどだに受留めおきたればこそ斯る騷ぎも出來しなれされはこれ聊も遺すべきこ〻ちせず水の災ひに遭て朝夕のけふり立兼る人も多かるべければさる人々に分ちとらせむと思ふは如何といへば村人等は尼の用意の深きを感じ傍ふ傳作の貪慾によりて身まかれるとのもとを知りいよ〻冥罰の爭ひがたきとを覺りて軈て遺骸をうしろの山に埋め村のうちの貧しき人には尼の志しの程を觸れ示して日を定めて庵に赴ふかせぬれば尼は彼の三百兩を錢にかへて戸口に積みおきこの錢を施すことの顛末を說き知らせ男女老幼おなじやうに惠みやる度に念佛申してわかち取せつ〻毫のこし留めざりしかば村人等はます〳〵その德をた〻へて今の世に有り難き聖と尊びあへりしとぞ斯て後も傳作の追善供養怠らずつとめて八十年餘の長壽をたもちこの草庵に大往生をとげたりとなむ語り傳へぬ　（畢）

○前號の此文中五百九十四丁の下段十六行目陰木とあるは木の誤り五百九十五丁の十五行目この金とある傍訓「きむ」は「こがね」の誤五百九十六丁の上段七行目「みずから」とあるは「みづから」の誤植なれば愼て校正の疎漏を謝す

◎雜記

○夫婦の大學

左に錄するものは嘗て「夫婦の幸福は如何にして得べき」といふ書物を著はし夫婦間の幸福を計るとに熱心なる或る婦人の作れるなりとて英國婦人重寶雜誌に出したるものなるが道德の本位とする所は記者の信ずるとは聊か異るところ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

あるがごとく考ふれどもそれいと高尚なる學問上のことよりて日常夫婦間の心得とすべきことゝも多かれば之を夫婦大學と題して左に錄しぬ

身持よからぬ人が妻を持ちてより俄かに身持よくなりて生れ替りたるがごとき人となりたる例は世に少なからざることなるが是は全くその妻の心得よきに化せられて自ら身の行ひを謹むが故なるべしさらば女たるものは夫の善き惡しきは專ら妻の良きと惡しきとに由ると思はるされども世には妻たるの務を怠るもの多きかごとくまた夫たるの務を怠るものいと多く良き妻を娶るときはこれを天の賜ものなりなど思ふべけれども良き妻はまた夫の働き出すものなりと知るべし妻は決して夫より勝りて良きものあるべからず妻の善きは夫の善からしめたるがゆゑなり

世を渡るに妻なくて能はず又妻ありて能はざる男も少からざるなり獨身にて心細く暮すもまた心安きところあり妻を持ち却て一家の艱難辛苦を增すものあり扨てまた妻となさゞる中は慕はしきまでに愛深かりしを一朝結婚なしてより忽ちに愛の衰ふる男あり斯る男の妻とありたる女はその日より賤しみ陷しめらるゝことと疑ひなし良き男にいたりては大にこれと異りて愛深くして變ることなく常に家內の平和を心掛け我が思ふことは皆これをその妻に明し或ひは問ひ計りなどしていと睦まじからんことを樂めり

病氣なるがゆゑか或は非常に哀しきことゝ失望したることなどのあるがために女の聊か執拗なることあるも心得よき男は總て目を閉ぢ慈愛の袖を以て面を蔽ひこれが爲めに平生の恩愛を捨ざるべし

また惡しき夫は決して幸ひなる人にあらずといふ俚諺の誠ならんには夫たるものは啻に不正なることをなし酒を呑み懶怠なるなどの行を愼むのみならず私欲なることを禁ぜざるべからず私欲は歎き庭草を稠ましむる霜雪のごとく家內を衰へさするものと知るべし良き婢僕を得るさへに幸福なりといふに良き子を得たらんには如何に幸ひなるべき況て良き妻を得たるの幸ひには何事かこれに過ぐべきされば男はよき妻を得んことを勉め良き妻を得たらんには之を失はざらんことを勉め之と共に樂まんことを勉むべしまた夫を大切にする女は爭でか夫の大切にせざる事あるべきぞ(以下次號)

○婦人の選擧權(前號の續き)

婦人に選擧權を與ふることとならんには必要なる論題の起りた

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

るときに臨み婦人ハ甲乙の双方に同一の勢力を有するに至るべきや否につきてハ余輩(女皇新聞の記者)聊か疑ひなきと能はざるなり婦人の權力ハ如何なるところにて止るべきか今よりこれを知りがたしといへども婦人が活潑なる政黨政治家とならんとハ何れにしても甚だ望ましからざるなり選擧會に於て投票買人(金を出して選擧せられんとを謀るもの)隱謀者などハ男子の最も拒むところなるが婦人に向ひて眞正に選擧せられんとを望む正當のものにも平等公平なる關係を持たんとを望むハいと難かるべし諸方の慈善會の選擧に於ても一種の目的を以て選擧する不正の風ある事ハ既に世の人のよく知るところにしてかゝる會に關係の最も深きものハ却て選擧せられざるの傾きありて諸選擧會にハ隱謀者ありて之を左右するの弊多くその隱謀者ハ選擧場をとり巻ける婦人の中に多しといふ既にかゝる弊害あり國會議員の選擧にこの弊をつけ加へんとするとハ甚だ望ましからざるなり近ごろ行はれたる選擧會に於て或る勢力ある貴婦人ハ己が好める候補者を選擧せしめんとて多くの人々に諂て握手の禮を行ひたるがため甚だしく右の手を痛めて終に不具ものとなり白き木綿もてその手を肩に釣りて歸りたり斯ほどに熱心なるハさるとながらこれ即ち悪しきことにして今より一層競爭の甚だしき選擧會に於て婦人を見んとハ余輩の欲せざるところなり既に前にもいひしごとく保守と急進両黨の國會議員中婦人に選擧權を與ふべしとの説を持するもの追々增殖すといへども政黨の爭ひに婦人の關係するハ望ましきとあるや否ハ大に議論を要すべきの問題なり今度新たに選ばれたる議員が婦人に選擧權を與ふるともまたハこの後の國會に於て與ふるとも婦人の投票ハ豫想したるほどの勢力あるべきや否甚だ疑はしく他に多く請求したる事柄と均しく權利を與ふると同時にその價格を失ふことあるもいまだ知るべからず

近年婦人に關する諸法律の進歩せしにても男子が婦人に正理を施さんとするを見るべくまた近ごろ人の感動を起したる一二の結果によりても男子が婦人に權利要求の道を與へたるに相違なきとと思ふなり

現に論者のいふ處ハ税を納むる婦人に選擧權を與ふべしとの事なれどもこの請求ハこれに止まるや否の疑問起るべし選擧權を有する獨身の婦人が結婚したればとてその權利を廢滅すべしとハいひ難からんされども夫婦均しく投票の權を持つにあらずんば止むを得ずその婦人ハこの權を棄ざるを得ざるべ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

しされば我々男子中に普通選擧を要求するの時節もまた近寄りたりと思はるまでこの時節到來したる上ハ婦人もまた男子と同等の權利を要求すべきなり若し然らば現に全國にて婦人の數ハ男子よりも餘程多きとなるが故に選擧會に於て男子の投票よりも婦人の投票の多きハ當然なりさすればこゝに驚くべき不道理の事起るべし其ハ國の富ハ婦人よりも男子が多く設けて男子ハ婦人よりも多く税金を拂ひ男子のミ兵隊となり水夫となり巡査となるとにて却てこの男子を支配する國會ハ男子よりも多數なる婦人の選擧せしところなるがゆゑに法律を制定るとハ勿論戰爭を開くとまでも皆婦人の手に歸して男子ハ婦人の支配を受くる道理なりかゝる事情あるにも拘はらず今劇に婦人に政權を持たしむる事如何あるべき歟（完）

○西洋禮式一斑

〔歩行の禮〕英國にてハ男女同道して遊歩などなせるときたゞ一寸懇意にする人にても婦人がその人の腕をとると間々ありといへども米國或ひハ歐洲大陸の諸國にてハその男が婦人の良人あるひハ言換しする男なるかまたハ近き親類なるにあらざれば婦人がその腕を取ると決してなし

婦人が歩行中に買物をなしその品ハ自から携へ得らるゝほどの小包なりしとき同伴の男子がこれを持つべしといへばその人をして携へしむるを得べしといへども如何なる事情あるも一包より多くハ決して持たしむべからず

一人の男子の腕を二人の婦人にて取合ふハ妨げなしといへども一人の婦人が同時に二人の男子の腕を取るとハ德義上に於ても習慣上に於ても決してあるべからず

男女同道にて公園遊園あるひハ博覧會場の内を遊歩しながら少し草臥れたるとき婦人に腰掛を備意するハ男子の務めなり然るに斯る時男子ハ立ながら待つとあるの習ひなるがその時ハ同伴者の禮義と忍耐とを畫餅にせず少し休みてなるべくはやく立ち上るべし

歩行中知交の男子に出會たるときハ男子の會釋（即ち頭禮のとをいふ此後も皆會釋と譯すべし）をまたずまづ婦人より會釋すべし

市街あるひハ博覧會場などその他公けの場所に於て友人またハ知交の人に出逢ひたるときハ傍はらに居る人々に聞ゆるほどの聲にてその名を呼ぶべからずまた市街を隔てゝ人の名を呼びあるひハ乗り合の車中などにて自分の傍はらに居らざる人と談話せんとすべからず

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◎新作物語

春のや主人稿

○巣守の妻　第七回

水と油とハ混淆るに難く、酒と水とハ混るゝに易し、思ふこゝろの重量が違へばなるべし、女同士ハ馴れ易しト世の諺にいひ囃せど、それだこゝろの氣質の高下に因りて、流石に隔て勝にうち解がたきや、お民ハ小石川に移りてより、已に七八日になりにたれど、今尚ほ何となう心置かれて、刀自の越野とハ親しうも得ならず、越野も何とやらん胸閉へて、お民とやゝ久しう物語らひ居れば、怪しう不愉快なる感覺が起りて、終にハ得堪ふまじう思はるゝにぞ、成べく眼と耳を失ひたる了見、見ざる聽かざるで日を送れば、お民ハ彌増に心を置きて、萬事に氣兼勝の嫁姑、互ひに慰むべき便宜なきに、殊に心細きお民が境遇、天地にたゞ一個と頼みにせし、夫ハ遠き旅に立出て去り、我身ハ思ひよらず引取れて、この家の嫁のやうになりハしたれど、養母の返答ハ吉の凶か、思はぬイザコザの種などにハならずや、よしや運がよくて事故なく話がお芽出たう極まればとて、如何やら怖いやうな「おふくろ」さん、わたしを可厭さうに睨んでじやが、もしや「あの人」が歸へらぬうちに、もしや惡がられてこゝの家を」トいろ〲さま〲の取越苦勞、小さき胸のうちの休まる間なく、いつしか風が根元で枕騒ぎ、お醫者よ藥よといはるゝ程、居さふらふの身の氣の毒さ、「イヽエ今日ハ大分ようでさいます、明日から起まする」ト青い顔色して苦しさうな笑顔、よしや惡魔でも鬼神でも、これを見やりてハ惡みハせじ、まして人情のある者をや、

姑ハ我子の爲に嫁の爲己がため行末のために、互ひに言はせして苦勞にせし例の大阪の離縁の談判、ぞんぐわい易々と片附たり、小間物屋の某が、何處で如何にして探り知りしの、お民の本籍が名古屋にありて、養母ハ内々の養母にして、けつして公然の養母にあらず、トたしかに本元を突留つゝ、扨て老練なる手段を用ひて、巧に金づくで説たるゆゑ、向ふハ兎に角に昔風の女氣、威しつ賺されてやう〲ひるみつ、わづか二十以下の金子に卷かれて「まつたく縁を斷る」と諾きけり、かゝりしかばお民も越野も、互に思ふ事ハ違ひながらも、ホッと安心して同じやうに息吐き、越野もおのづから額の皺を減し、お民も顔の色を活しにけり、定めしこの事よりイザコザを生じて、伜の不名譽の種ともなるべし、嗚呼〲このお民といふ卑しき乙女ハ、扨も我爲に我子の爲に苦勞の基となる女

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

うな」とはじめハこれもまた源泉
となりて、益々疎々しくもてなせ
しに、意外にこの事件が滑らのに
すみて、まづ〱一廉だけ安心し
つ、自然にその餘響がお民にもお
よびてやう〱愛らしうおもひそ
めぬ、
お民も日を經るまゝ病薄らぎ、臥
床を拂ふ迄になりたりしが、さす
がに全快とも見えざるゆゑ、越野
ハ繰返してをしへ諭して、今尚は
藥用を勸むるなるべし、兎角する
程よ日數たちて、おひ〱肌寒う
吹變る風に、ソヨと音信るゝハ外
國よりの郵便、越野ハ急がはしく
封切りて讀めば「旅中恙なく亞米
利加へ着達、それより箇樣〱云
〱まて、昨日やう〱は何學校へ
入學、それから斯々にて斯樣〱

六百二十一

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

なり、萬事御安心下されたし、」ト細々事つぶさに書いたる文面、ほとんど二丈にもあまる長文、常なら六七ふく煙艸喫ふ間を、息をも繼ぎあへで讀了りつ、ヤッと返すがきのところに來れば、別封お民へとの頼の文言「定めし「あれ」もまた同じ情で、伜の消息が聞たからう、早速持ゆきて」トやさしき女氣、いそぎ別封の手紙を携へ、奥の中二階へトン〳〵、「お民や「ハイ「チヤ顏色が惡いやうだ、またぶり返つて惡いのではないか「イ、エ今階下で煙ッたので、お隣の煙が這入ッて來たので、……ア、煙うございました」トッツと眼の邊をおし拭ふて、ニッコリ打笑みたるお民の貌、越野は憫然さうに打見やりて「民や、亞米利加から來ましたぞや、亞米利加から郵便が、これが其方への別段の文、サア〳〵早う見て」トまめ〳〵しくいへど、お民は尚更に浮ぬ貌附、折角こしらへたる両頬の笑凹も、忽ち跡形なういつしか消失せ、しよんぼり涙含みてさしうつむく、「チヤどうしたの、氣分でも惡いか、これを一通讀んで見なさい、大方同じやうに書いてはあらうが、萬事都合よういつたとの事で「それではお船旅のお障りもなく「ア、〳〵無事でチ「嬉しやそれではもう學校へも「ア、入學つたとの事、その事も此文に書いてあらう、何故そなたは讀まぬのじや「讀たいのは山々ですが……「チ、それでは其方はアノ字が……「ハイ」トいひさして眞赤になり、ホロリと取落す一雫、これが一月程前かたなりせば、越野は覺えずも眉をひそめて、氣持を惡うせし事ならんが、今は色々の原因より、幾らか思ふ所異なる故、只管可愛相に思ひ做して「それでは妾が讀んで聞かせませう、何の氣遣うには及ばぬ事、よしんば如何事が書てあらうと、耻じやもの、夫婦中じやもの、何の耻かしい事があらう、ドレ〳〵一通り」ト封押切、サッと開て見れば半紙一枚、五分四方程な大きな假名で、小供が書たやうに一字〳〵、ハッキリ離し書に背附たり「ぶじでついた、あんしんしな、よく〳〵おッかさんのおッしやるとをきいて、ことばづかひそのほか、きをつけておならひ、いつかわゝしたてはん、べんきやうしておならひ、てがみぐらゐかけるやうにしなよ、くわしいことはおッかさんへかいてあげた、よんできかせておもらひ、おたみどのえんさく」電信文のやうな本意なき手紙、母へ送りたる長き文とは、雲泥啻ならぬ違ひあるを、つく〴〵聴とりて嬉しげなる面地、「おふくろさま……（越野は覺えずも眉をひそめて、お民の貌附をジット見やれば、お民はたちまちに口際りて）おッかさま、どうぞ、何卒ととかりではございますが、どうぞ伺う一

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

度この文の句讀を……尙う一度讀んで下さると、諳にして覺えて置きますから」この罪のなき一言葉ハ越野の眉の皺を解ぬべらなり、

◎家政要報

○家事會計の心得（前號の續）　　家內勝手向きの經濟ハ固より婦人の取締るべき筈にして心得よき婦人ハ常にこの事にこゝろ掛け良人より渡されたる金子をば決して他人のものと思ハず良人の懷中ハ即ち自分も良人と同樣の關係ありと心得べき事今更らいふヱ及ばさる事なり

扨て婦人ハ良人よりうけ取りたる金子の遣ひもらひに綿密なるべく良人ハ既に勝手向の經濟を婦人に取扱はしむる以上ハ一々遣ひ拂ひの明細までを知らんとそべからず細かき事にまで干涉するハ勝手向の都合を亂し却てよろしきとにあらざるなり婦人ハ婦人のとり扱ふべき事柄につき經濟上種々のさし繰りあるものにてその事柄いと細かなるがゆゑヱ男子が干涉して一々取調べをなすとも容易に解し得られざることと多かるべし故に良人ハたゞ總躰を取締り勝手向きの入費として渡したる金子の總高につきて規律を正しくし微細なるとハ婦人に放任せをくことと却て經濟上に都合よしろの經驗ハ佐官ホチソンの傳に委しく記したり勝手向き費用の定額を定めず入用の品ハ一々出入の商人にいひ附け勘定日にいたりその書附を取り集めて良人より之を拂ふときハ案外に多額を拂ひいだすがごとき心持がするものにて婦人もまた日々經濟取締の上に標準とするものなきがゆゑ甚だ不都合なり扨て歐米にてハ婦人ハ婦人の財產を所有するもの少なからざるがゆゑに英國にてハ新定の法律（結婚したる婦人の財產法といへるにてこの事ハ倫敦ヱ在留せる舍友の許へ取調べの事を依頼したれバ委しく本誌に記載するの期あるべし）を以て良人の金錢を取扱ふに多少の信用を置かしむるの方法あれども金錢上のことに關してハまづ夫婦の間に平和にして規則立ちたる約束をなし置く事肝要なり鐵ハ赤きうちに打てといふ諺あり婚後の月（結婚後夫婦旅行するをいふ）の熱氣の冷ざる中に夫婦間に堅く約束を定め置くべし後に至り其時〳〵に良人の出金を請求するハ宜しからずかゝる微き事より双方の氣持を惡くする事あり聊かにても一度心持ちの惡しくなりたる上ハ之を回復せんと容易の業にあらざるなり　（未完）

○白米　一等一斗二升六合二等一斗三升五合三等一斗四升四等一斗四升九合五等一斗五升六合

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎御伽草

○十人並

手かきなりとて誇れる女教師の面貌いと醜きがありけり或人その我れがはなるが憎しとてせめて十人なみならましのばと評したるを此女教師漏れ聞きてふかく腹だちてあからさまに或人に對ひて恨をかこちけり或人只管に詫びむとれ思ひしかど常に思ひわがり誇れるが片はら痛しと思へば如何も然いひしに違ひなし青物賣りに來る男が附木に書る一の字も此方が書る一の字も遠くれ逮れずといはじげにと詫び賜ふの左より右に引る筆つきれ同じけれども同じとれ言難かるべし眼耳鼻口かくるとなく揃ひたりとて十人並なるも此なみゝ劣れるも優れるも有るべしざれ侍らずやと言ひければ女教師も愧て迯入りしとぞ

○わろき日に行合せぬ

田舎より出たる女曾我物語の狂言を見て歸りての話說に今日いあやにくわろき日に行合せたり逆澤瀉の鎧の失たりとて終日只此事にのみ打懸りてありしが漸く尋ね出しぬと思へばうち出しになりぬとぞ言ひける斯る看者の多き世に演劇改良を行なむれ容易とにれあらじのし

前號の御伽草の七行目「さる憤れ、」とあるれ「さな憤りそ」の誤植なればこゝに正誤して校正の疎漏を謝す

○數學問題

一旅客あり一里を行くに一時十五分を費すときれ十二時三十分時にれ幾里を行くべきや

○第三十五號數學問題の答式

$$\left.\begin{matrix}8\\14\\12\end{matrix}\right\}:\left.\begin{matrix}18\\7\\12\end{matrix}\right\}=4032:x$$

$$x=\frac{18\times7\times12\times4032}{8\times14\times12}$$

$$=4536$$

答

四十五圓三十六錢

答者

○岩本はな○松永すゞ○長谷川いな○駿州村松とく○大坂太田駄部○仙臺尾羽文治○長崎吉尾さな○備前元田高○東京小林はな○岩鼻山田○高崎神谷すし○内海とく○山田なか

◎寄書

○歌舞伎の起源(前號の續き)　東京　杉園生漫稿

又四月十六日の條に是日於二千本棧敷一殿有二女曲舞御見物一余同抑件女曲舞自二去十月七日一於二千本一舞勸進云々、彼女生年十九云々、容顏尤美麗凡超二過諸人一希代事也舞拍手言語道斷奇妙之至也見物雜人四五千人許云々、美濃國人云々、先男舞、露拂、次十四五許、兒舞一番次女一番舞了、兒與レ女立合舞レ之座者

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

十餘人許也」とあり按ずるに上の女猿樂いはゆる女にして猿樂をものせると論なけれど永享、寛正ともによみな言語道斷希代のよしの文勢をもて考ふればろの新を競ひし趣き明かにして從來の猿樂所作の變態なると論をまたず（猿樂、田樂、白拍子の類ハ猿樂沿革考證に委くいへり）曲舞ハ七十一番職人盡歌合にろの圖もみえて白拍子に伯仲のものなるを上文なは言語道斷奇妙の至などの文勢に據ればろの立合脚色をめづらしく取おし川ると是亦明にしてかの猿樂、曲舞の類從來の所作を斟酌しての一種の歌舞新奇にうつりし事も明ならずや果して一種の歌舞となりてんよ〱狎褻の態にうつり羅山先生もにくめるが如き所作となりしならんにハおくにが權輿せしといふ慶長の度に先だつと最もはるかなりといふべし

○婦智を進るの策（前號の續き）　遠江　村松はあ

それ貿易あるものハ運輸交通の便に頼り甲乙互ひに品物を交換し以て社會の進歩を助成そるにあり形以下のものにして斯のごとし況んや文化の一大元素ある智識を交換し互ひに長を取り短を補ふに於ていろの利その得果して如何ぞや然り而て智識を交換するに二箇の方法あり曰く言語曰く文學是れなりこの二方法各々長所あり今ろれ言語を以てするハ文字を以てするよりも聽者を感動せしむる事今更妾が喋々を要せずして既に定論ありと雖も如何にせん離散索居のものをして等しくろの利を受けしむること能はず且つ我邦いまだ鉄道の布設全たからざるが故に尙ほ一層の憾みあり聞く東京府下に於てハ既に婦人交際會およひ婦人智識交換會なるものありと請ふ當局の姉妹諸氏に黽勉を以て矛となし忍耐を以て盾となし勇往敢爲ます〱進んで隆盛の域にみちびきろの餘響をして他府縣に波及せしめかくのごとき會合をして陸續接踵して起るにいたらしめよ

（以下次號）

○顏色を美にする法の質問　麻布　土方つま子

人誰か顏色の美なるを欲せざらん顏色の美なるハ直接間接ともに大なる益を有せり天然の美を有せる歐洲人すら問酸化砒素の毒藥を服してその美を添るものありと聞く況や黃色の日本人に於てをや然ばころ貴舍雜誌にも數度變色の方法を記載せられしならん然ながら一も妾に滿足を與へざるに似たり記者先生諸君に乞ふ盡力妾が心に滿しめ賜はんとを學術日に開け行く今日何ぞ良法奇藥のなからんや

〔記者も亦良法を求めて寢食を忘るゝに至り益々容色を損へり（原ハ美なりし）若し之あらば世の人敎へ賜へかし〕

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

廣告

●教育時論大改良ノ廣告

每月三回 五ノ日發刊

(郵税共一部金六錢十部前金五十八錢廿部前金壹圓十錢)

弊社教育時論の儀近來頗に改良を加へ來り候處頗る江湖の望に副ひ購讀者日に增加仕候よ就き今般は更に一層の改良を加へ記者を增し紙數を增し廣く內外學士に交際を結びて其贊助を受くることに定め歐米刊行の教育書教育雜誌等普く購覽して遺聞なきを期し候間何卒教育に御篤志の方方御購讀の程伏て奉願上候依て左に記載の目次概略相認め御參覽よ供し候

●社說、公平無私熟議ヲ盡シテ之ヲ出ス最モ世論ヲ動カシ學政ヲ裨補シテ新主義教育ヲ擴張センコトヲ要ス●論說、廣ク教育ニ關スル諸家ノ論說ヲ登錄シ名論卓說ヲ喚起シ世ノ教育ヲ進步セシメンコトヲ要ス●輿論一斑、廣ク新聞雜誌ヲ涉獵シ共教育家ヲ益スルニ足ルモノニ就キ要點ヲ摘錄シ最モ少キ時間ヲ以テ最モ多數ノ輿論ヲ知ラシメンコトヲ要ス●學術、新奇有益ノ學說ヲ掲ゲ或ハ材料ヲ歐米ノ圖書雜誌ニ求メ或ハ力ヲ內國ノ諸學士ニ借リ最モ讀者ヲシテ教育上ニ必要ナル學術ノ要義ニ通セシメンコトヲ要ス●學記一斑、內外ノ圖書雜誌ニ就ギ一時ノ學者ガ如何ナル學說ヲ主張スルヤヲ撿シ其要點ヲ掲グ●雜記、かなぶみヲ載セ英和對譯文ヲ掲ゲ試驗ヲ受クル者ノ心得トナルベキ諸件ヲ記シ新體ノ詩(音譜ヲ付スルコトアリ)ヲ載セ其他珍ラシキ事面白キ事件社員ノ出セル雜說等ヲ記シ實益ト快樂トヲ併セ致サンコトヲ要ス●問答、或ハ質問ヲ出シ或ハ答案ヲ掲ゲ最モ宿疑ヲ釋キ思慮ヲ練ランコトヲ要ス●傳記、肖像ヲ挿ミテ內外名家ノ傳ヲ載ス●論題、教育上切要ナル論題ヲ提出シ世ノ教育家ノ意見ヲ求ム●內外雜纂、上教育家ノ知ラサルヘカラサル新事件新要報ヲ內外ニ探リ來テ之ヲ掲グ●官報抄錄、勅令省令等ノ教育家ニ要用ナル件ヲ掲グ●見本御望の方方は郵便切手三錢御封入被下候ば何時にても進呈可仕候

● 東京下谷區練塀町十四番地 開發社

學藝雜誌

每月(五日○二十日)二回刊行 一冊正價(遞送無料)金八錢

●前金の外遞送せず●郵券代用の向は遞送費御自辨●見本一部は一錢切手八枚にて遞送す●割引半年分(十二冊)前金九拾錢●一年分(二十四冊)仝壹圓六拾八錢●二年分(四十八冊)仝三圓十二錢●賣捌を望む向は特別割引すべし

本誌は專ら學藝教育に係る理論、應用及實驗を掲ぐ

●第三號九月廿日發兌●一冊八錢●目錄●攘夷の事を論じて書生諸君よ望む、文學士高田早苗●兩金貨幣制度論、文學士濱田健次郎●採長補短を駁す、法學士片山濤太郎●寬平法皇(宇多天皇)論、大內青巒●動物論杉田玄端●怪談(神精病の解)、小原賴之●氣象學の必用を論す、理學士杉浦重剛●サイエンスの說、安東辰次郎●教育及教授、生駒恭人●精神上の衛生、大嶋盛造●心識論、夢窓國師●小說総論、冷々亭主人●外雜報十二件

學藝雜誌 發行所 東京淺草區(御藏前)南元町二十四番地 贊育社

○女子英學會

ハ速成實用ヲ主トシ女子ニ必要ナル英學ヲ懇切に教授ス○生徒追々進步ニ付益々規則ヲ改良シ更ニ新入ヲ募ル有志ノ婦女速ニ來會アレ○外國人ニ關係アル商家職工等ノ婦女ニテ業務ニ關シタル會話其他ヲ學バントスル人又ハ年長シテ幼年者ト共ニ學ブヲ恥ル人等ニハ別ニ簡易ナル教授法アリ○月謝五十錢和漢學兼修ハ合テ七十錢

京橋區南佐柄木町二番地 女子英學會

發行所 東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地 積文舍

持主兼印刷人 松本義弘

編輯人 初鹿野鎌五郎

女學叢誌賣捌

東京芝區愛宕町一丁目三番地	大賣捌	修正堂
同 神田區淡路町	同	巖々堂
同 神田區佐柄町廿一番地	同	東海堂
同 日本橋區新葭町		良明堂
同 牛込區肴町十七番地		活神堂
同 芝區愛宕下町二丁目		高槻堂
同 蠣売町貳丁目		信文堂
同 本郷區本郷元富士町二番地		盛春堂閣田
同 本郷春木町貳丁目		解明堂
同 牛込區牛込樂神町		積善堂
大坂府備後町四丁目		岡嶋支店
千葉縣千葉本町一丁目		立興舍

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY